

よなごびと

| 第70回 |

鳥取県障がい者スポーツ
強化指定選手・コーチ（水泳）

むらた しずや よしみ
村田 静也 さん **良美** さん



好きなことに集中すれば

世界が変わる

村田さんは進行性の目の病気で、16歳で視力を失いました。現在は市内で鍼灸師として働きながら、水泳、卓球、スキー、ボッチャといったスポーツやギター、そして3年前の東京五輪では聖火ランナーも務めるなど、精力的に活動されています。

子どものころから体を動かすことが好きだったという村田さん。特に水泳は視力を失ってから本格的に始め、18歳のときにはトロント・パラリンピックに競泳平泳ぎで出場し、入賞しました。

現在も鳥取県の強化指定選手として大会へ出場され、全地区で自身が持つ大会記録を塗り替え続けています。トレーニングは仕事の合間を縫い、大会前には週4〜5回。

妻の良美さんがしばしば練習に付き添います。良美さんは、ターンやゴールタッチのタイミングを棒で選手に知らせる「タッパー」を務めます。選手が壁に近づくと、棒で選手の体を叩く「タッピング」の技術が必要で、このタイミング次第でタイムが左右することもするため、良美さんも共に練習を積んできました。

村田さんは「妻がいなければ、今日の自分はない」と感謝し、良美さんも「全国の大いに一緒に行くのは楽しい」とほほ笑みます。村田さんは原動力について、「見えると見えなかつたかではなく、自分の置かれた立場で、できること、好きなこと、楽しいことに集中すれば、世界が変わる」と声を弾ませます。



競技を通して、全国各地でたくさんの人と出会うのも楽しみと話す



聖火リレーは、良美さんも伴走者として一緒に走った